

### 1. 基本情報（令和5年4月末日現在）

|    |         |     |        |
|----|---------|-----|--------|
| 人口 | 63,763人 | 保護率 | 0.735% |
|----|---------|-----|--------|

### 2. 支援状況（令和3年度）

|                       |          |      |        |      |     |
|-----------------------|----------|------|--------|------|-----|
| 新規相談受付件数（人口当たり）       | 22.75件／月 |      |        |      |     |
| プラン作成件数（人口当たり）        | 2.92件／月  |      |        |      |     |
| 就労支援対象者数（人口当たり）       | 6.25人／月  |      |        |      |     |
| 就労・増収率（%）             | 38.7%    |      |        |      |     |
| 任意事業等の実施状況（令和5年度（予定）） |          |      |        |      |     |
| 支援会議                  | 就労準備     | 家計改善 | 一時生活支援 | 地域居住 | 子ども |
| ○                     | ○        | ○    | ○      | ×    | ○   |

### 3. 会議の概要等（令和4年度）

|         |   |
|---------|---|
| 構成員     | 弁護士、司法書士、社会福祉士、臨床心理士、警察署、消防署、保健所、社会福祉協議会、公共職業安定所、区長会、民生委員、自立支援業務委託法人の代表者 庁内関係部署の代表者   |
| 会議の内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら支援を求めることが難しい潜在的な生活困窮者について、早期に発見し、委員間で情報共有を行い、適切な支援につなげることを目的としている。</li> <li>取り上げた事例の例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>■精神疾患の高齢者の見守り支援や車上生活者の支援について情報共有</li> </ul> </li> </ul> |
| 開催方法等   | 開催頻度：検討ケースが上がった時<br>時間：1～2時間程度<br>場所：市庁舎会議室   |
| その他特記事項 | 事務負担の軽減を図るため、玉名市消費者被害見守りネットワーク連絡協議会とほとんどの構成員を重複させ、会議も同日に時間を区切って開催している。  |

### 4. 会議設置までのプロセス

#### 設置前

- ・暮らしサポート課内に自立相談支援機関を設置しており、生活困窮が疑われる様々な情報が寄せられていたが、本人の同意が得られないため支援ができない状況であった。
- ・このような事例について関係機関で情報共有を行い、支援に繋げるために設置

#### 委員の人選【6ヶ月前】

- ・どの職種の方に委員に就任してもらうか、人選に時間がかかった。目的は生活困窮者の早期発見と適切な支援に繋げるための情報共有の場であるため、同時期に立ち上げた玉名市消費者被害見守りネットワーク連絡協議会とほとんどの構成委員を重複させた。

#### 設置に向けて

#### 関係部署への参加の依頼【6ヶ月前】

- ・庁内の関係部署（障がい福祉、税・保険、子育て、住宅、教育等）に対し、会議の構成員となってもらうため、会議の趣旨等について説明。
- ・庁内全体で多くの会議体があり、更に負担を求めることになるが、構成員になることによるメリットについて説明を行い理解を得るよう努めた。

#### 設置要綱の策定【6ヶ月前】

- ・国の示すガイドラインのひな形を基に暮らしサポート課で作成。

### 令和2年4月 事業開始

#### 会議開催

- ・開催実績：8回(令和2年度)、3回(令和3年度)、1回(令和4年度)
- ・支援会議を通じて関係機関と情報共有が可能となったことにより、連携して支援にあたるできるようになった。
- ・本人の同意が得られないことにより、支援が進まず、見守りのみを継続していたケースも、繋がり続けることにより、どこかのタイミングで介入の糸口が見つかり、速やかに連携して支援にあたることができ、解決に結びつくケースもあった。